小項目ごとの評価に関する評価委員会の検討結果

資料2

「市民に提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する小項目評価

評価番号	評価項目	自己評価		委員会意見	判断理由・コメント
【1】	総合医療センター	Ⅲ	＝	Ⅲ	●法人が設定した目標指標については、小児がん登録件数など、目標を下回った項目があったものの、放射線治療件数、外来化学療法件数など目標を上回った項目もある。その他、重症病棟の充実や手術室増室に伴う手術件数の大幅な増加など、総合医療センターが提供している高度・専門的医療については、計画を順調に実施していると評価できることから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【2】	十三市民病院	Ⅲ	＝	Ⅲ	●結核医療については、目標・前年度に達する事が出来なかったが、内科系二次救急について、全日での受入れを行った結果、救急搬送件数が目標を大きく上回ったことなどから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【3】	住之江診療所	Ⅲ	＝	Ⅲ	●住吉市民病院の廃止後、小児・周産期における１次医療に対応するため、同敷地内に住之江診療所を設置し、引き続き地域医療の確保に努めたことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【4】	新しい治療法の開発・研究等	Ⅳ	＝	Ⅳ	●目標指標である臨床研究（新規）件数が目標、前年度を大きく上回り、厚生労働省や文部科学省の科学研究費助成制度等による共同研究実施数も増加したことなどを考慮し、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【5】	治験の推進	Ⅳ	＝	Ⅳ	●目標指標である医師主導治験が目標・前年度ともに上回り、年度計画の項目を着実に実施したことから、Ⅳ評価とする法人の評価を妥当と判断。
【6】	災害や健康危機における医療協力等	Ⅲ	＝	Ⅲ	●災害拠点病院である総合医療センターを中心として十三市民病院とも連携し、各種防災訓練等に積極的に参加した。また、DMAT隊の災害対応能力の向上に向けた取り組みや、外部関係機関との連携確認など、災害拠点病院としての責務を果たすための体制強化を進めたことからⅢ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【7】	優秀な医療人材の確保・育成	Ⅲ	＝	Ⅲ	●目標指標のうち、初期臨床研修医から後期臨床研修医への採用数を除くすべての指標で概ね目標及び前年度に達したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【8】	職場環境の整備	Ⅲ	＝	Ⅲ	●育児短時間勤務制度の運用を実施しているほか、勤務実態に応じた柔軟な勤務体制の導入や、病児保育の実施など、引き続き働きやすい職場環境の整備に努めたことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【9】	施設及び医療機器の計画的な整備	Ⅲ	＝	Ⅲ	●老朽化した設備の更新等一連の改修工事について計画的に実施したほか、医療機器調達コストの抑制を図るなど、年度計画の項目を着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【10】	地域医療への貢献	Ⅳ	＝	Ⅳ	●地域医療機関との連携については、概ね前年度並みであり、年度計画の項目を着実に実施した。目標指標である紹介率は、総合医療センター、十三市民病院とも目標・前年度を上回り、逆紹介率は総合医療センターは前年度をやや下回ったものの目標に達したことから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。

【11】	市域の医療従事者育成への貢献	Ⅳ	＝	Ⅳ	●目標指標である実習受入れ数（合計）が受入れ数、受入れ延数ともに目標・前年度を上回ったことから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【12】	市民への保健医療情報の提供・発信	Ⅲ	＝	Ⅲ	●市民公開講座等の開催について積極的に実施し、情報の提供・発信に努め、年度計画の項目を着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【13】	患者中心の医療の実践	Ⅲ	＝	Ⅲ	●各現場での相談対応や各方面の就労支援専門家を導入するなど積極的な取り組みを行った。目標指標であるがん相談件数について、目標には達しなかったものの、前年度を上回った。がん相談件数は目標には達しなかったものの、依頼件数や各現場での相談対応件数は増加しており、また緩和ケアセンターでは2チーム制を敷き多様なニーズに対応し、他の医療チームとの連携強化にも努めていることから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【14】	医療の標準化と最適な医療の提供	Ⅳ	＝	Ⅳ	●目標指標であるクリニカルパス適用率について、総合医療センターは目標に達しなかったものの、概ね前年度並みとなり、十三市民病院は目標・前年度を達成した。また、DPC等にかかる総合医療センター及び十三市民病院の取組みについて、年度計画の項目を着実に実施したことから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断した。
【15】	医療安全対策等の徹底	Ⅲ	＝	Ⅲ	●各病院の医療安全対策、院内感染対策、服薬指導等について、年度計画の項目について着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【16】	低侵襲医療の推進	Ⅳ	＝	Ⅳ	●ハイブリッド手術の実施件数の大幅な増加や内視鏡手術支援ロボットを使用した手術領域の拡大及び実施件数の大幅な増加など、年度計画の項目について積極的に実施し大きな成果をあげたことから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【17】	院内環境等の快適性向上	Ⅲ	＝	Ⅲ	●各病院において患者に対する快適な院内環境の整備に努めたことからⅢ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【18】	待ち時間及び検査・手術待ちの改善	Ⅲ	＝	Ⅲ	●総合医療センターにおいて、CT及び各種エコーの当日検査枠の増枠や会計計算業務の内製化を行うなど、待ち期間・待ち時間短縮に努めた。十三市民病院においても、待ち時間の有効活用に向けた取り組みを行い、患者等の満足度向上に寄与したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【19】	ボランティアとの協働	Ⅲ	＝	Ⅲ	●総合医療センターにおいて、各種サービスのボランティア受け入れや管理体制を強化したほか、患者のQOL向上のためのボランティア活動やイベントを積極的に実施したことからⅢ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。

「業務運営の改善及び効率化並びに財務内容の改善」に関する小項目評価

評価番号	評価項目	自己評価		委員会意見	判断理由・コメント
【20】	組織マネジメントの強化	Ⅲ	＝	Ⅲ	●総合医療センターにおいて、病院幹部から実務責任者までが参画するPTを平成26年度から継続的に開催し、様々な課題等について検討・改善を図ってきた。また、病院固有の職員の採用に努めるとともに、新たな人事給与制度の導入を含め、更なる組織力の強化を図ったことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【21】	診療体制の強化及び人員配置の弾力化	Ⅲ	＝	Ⅲ	●入退院支援加算や内視鏡手術支援ロボットを使用した手術の新規届出などの診療報酬改定への対応について迅速に行うなど、年度計画を着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【22】	コンプライアンスの徹底	Ⅲ	＝	Ⅲ	●独法化に伴い整備した各種規程について、医療を取り巻く環境の変化に対応し改正を行ったほか、コンプライアンスに関する研修やカルテ開示対応等について、年度計画を着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【23】	効率的･効果的な業務運営･業務プロセスの改善	Ⅲ	＝	Ⅲ	●各病院において、診療実績及び財務データの月次報告を作成し、分析、課題の把握、対応策の検討を行うとともに、法人の運営会議等で共有し、課題の共有や対応策の検討を行うなど、年度計画を着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【24】	病床の効率的運用・診療単価の向上	Ⅳ	＝	Ⅳ	●総合医療センターにおいて、病床利用率・新入院患者数が目標に届かず、概ね前年度並みであった。十三市民病院では、病床利用率が目標・前年度ともに届かなかったが、新入院患者数は前年度をやや上回った。総合医療センター・十三市民病院とも、目標指標である外来診療単価及び入院診療単価が前年度・目標を上回ったことから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【25】	未収金対策及び資産の活用	Ⅲ	＝	Ⅲ	●目標指標である未収金徴収率は、わずかに目標には届かなかったものの、前年度を上回った。資産の賃貸借については、引き続き公募等により契約の相手先を選定しており、年度計画を着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の評価を妥当と判断。
【26】	給与費の適正化	Ⅲ	＝	Ⅲ	●目標指標である給与費比率について、十三市民病院では目標に達したが、総合医療センター及び全体では目標に達しなかったことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【27】	材料費の縮減	Ⅳ	＝	Ⅳ	●目標指標である材料費比率について、C型肝炎治療薬等を除くと総合医療センター、十三市民病院ともに目標を達成した。後発医薬品採用率については、総合医療センター、十三市民病院ともに目標および前年度を上回ったことから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【28】	経費の節減	Ⅳ	＝	Ⅳ	●目標指標である経費比率について、十三市民病院において目標・前年度に達しなかったものの、総合医療センター及び全体としては目標を達成したため、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【29】	運営費負担金の削減・会計処理の明確化	Ⅲ	＝	Ⅲ	●運営費負担金については概ね目標額どおりであることから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【30】	経営指標の設定	Ⅲ	＝	Ⅲ	●目標指標である自己資本比率は、前年度と同率で、経常収支比率及び医業収支比率についても概ね前年度並みであることから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。